



東京登文会NEWS

東京都登録有形文化財建造物所有者の会

第14号
令和6年10月01日発行

全国登文会フォーラム三重にて開催 -みえ登文会主催-

コロナ禍で中断されていた全国登文会のフォーラムが3年ぶりにみえ登文会的主催で伊勢・志摩を中心に開催されました。全国9都道府県の登文会から約50名の参加者があり6月21、22日の2日間に亘り見学会、セミナー、会員総会等賑やかな全国会が行われました。みえ登文会のご尽力で普段伊勢志摩観光の旅では知られない場所を多く訪ねることができました。東京登文会からは5名の会員が参加致しました。



伊勢市 皇學館大学講堂前



賢島駅前 松井真珠店



うなぎ料理 中六



志摩市立図書館

ヘッドライン

- 全国登録フォーラム三重県にて開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 全国登文会フェスタ・総会「伊勢志摩フォーラムに参加して」 漆原直子・・・・・・・・・・P2
- 東京登文会イベント 青梅街歩き(会員所有建物周り)・・・・・・・・・・P3
- 青梅へようこそ 宇津木まや・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4
- 会員総会と講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5～6
- お客様をお迎えする「ライオン像」について 田村公一・・・・・・・・・・P7～8
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P8

全国登文会フェスタ・総会 伊勢志摩フォーラムに参加して 漆原直子



漆原(筆者)、渡辺(事務局)、田村、大和田(事務局) 撮影：高橋

この度、本年の6,21(金)～22(土)に伊勢志摩で開催された全国登文会フェスタ・総会に初めて参加致しました。今回参加した理由は、埼玉県越谷市に住む伯母(亡父の姉)が、この1月末に93歳で亡くなり、伯母が所有していた国登録有形文化財の建物を私が1人で代襲相続したためです。

金物屋として仏具、大工道具や建材、農具、調理器具等を商っていて、店には様々な道具があり、そのまま民俗資料館になると思える程で、私は何とかこのまま保存できないかと思い、ネットで調べているうちに国登録有形文化財の制度があることを知り、申請してから約3年かかりました。

この度の伊勢志摩フォーラムは、みえ登録有形文化財建造物友の会の方々による主催で、志摩市と伊勢市の登録有形文化財建造物探訪と座学(講演会・意見交換会・文化庁からの制度の説明)の2本の柱で構成されていたと思います。

特に印象に残った所は、志摩市の大王埼灯台、伊勢市の御師丸岡家住宅と小西萬金丹です。大王埼灯台は、ダイダラボッチの伝承が残されている所です。バスを降りて片道約15分の細い道を歩き、体力に余力があれば灯台に登ろうと言われましたが、せっかくここまで来たのだからと、ほとんどの方が灯室まで登りました。私は螺旋

さすがに地上20mの高さまで上がるのは大変でした。

御師丸岡家住宅は伊勢に残る唯一の御師の家で、安政の大地震後、慶応2年(1866)に再建され、今日唯一残る貴重なお宅です。他は土堀だけしか残っていない所もありました。伊勢の御師は、伊勢神宮への信仰を広めて参宮を勧めたり、各地の伊勢講ともつながり伊勢参りに来た時のお世話等していたそうである。私の亡伯母が済んでいた埼玉県越谷市にも伊勢講があり、同市内の久伊豆神社に明治の頃の伊勢講に行ったことの記念の石碑が立っています。今夏、久伊豆神社では「埼玉からのお伊勢参り」という企画展が開催されていました。

小西萬金丹は江戸時代から続く重厚な店構えの現役のお店で、今なお「萬金丹」(名称：アセンヤク加工食品、製造所：富山市渡邊薬品)を販売しています。立て看板も立派で店の歴史を感じます。試しに1箱買って服用しましたが、なんとなく夏バテに効くような気がしました。講演や意見交換会では、登録有形文化財を所有する方々の現状、取り組みや、様々な課題が話されました。共通項は、保存活用の仕方、後継者問題についてでした。自分が置かれている現状を振り返りながら聴講し、大変勉強になりました。当家は代襲相続による法定相続人が私1人しかおらず、相続争いは起きませんが、相続税が2割増しになります。伯母の存命中、国の登録有形文化財登録後、越谷市に寄贈したい旨、伯母と共に申し入れに行った事がありますが、市の対応は歓談で終わり、実現には至りませんでした。これから先、私自身が被相続人となった時に娘達に負担をかけず、かつ、少子高齢化が加速的に進む今の時代に文化財の建物が後世まで残るような対策を講じることが大きな課題だと思っています。

青梅街歩き・・・会員所有建物廻り

3月9日に会員宇津木まやさんのお宅を目指し青梅街歩きを行いました。青梅の街は梅まつりと雛祭りの真最中、一年で一番賑やかな季節に伺うことが出来ました。ところが肝心の梅の木は何年か前にウイルス感染で多くが伐採され一本も見かけませんでした。町管理の津雲邸を最初に訪れました。昭和初期の政治家津雲国利の屋敷が綺麗に残されています。館内は全室ひな人形が飾られ優雅そのものでした。館長は津雲家御当主の津雲さんです。雛祭りは飾るのに1か月、しまうのに1か月かかるそうです。

津雲邸から直ぐの宇津木邸では伝統の雛壇に金魚も飾られていました。街には金魚売りさんが来ていたそうです。摩訶不思議なハイ取り箱を拝見しお庭の水琴窟を聞かせて頂きました。宇津木邸を楽しませて頂いた後は繊維工場あとを利用したシネマまゆ、とレストランまゆ蔵に向かいました。2軒とも地域の重要な文化拠点として賑わっていました。

青梅は文化財建造物がそのままの形で保存された登文の宝庫ともいえる素晴らしい地域であり10名の参加者は大満足でした。



湯雲艇にて(平間負債、鳥海さんと友人、伊藤負債)



宇津木の水琴窟



湯雲邸雛壇前にて

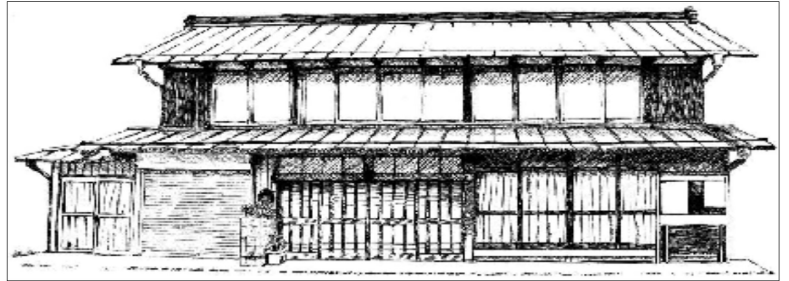


宇津木雛壇

青梅へようこそ 宇津木まや



宇津木まやさん



宇津木家住宅

東京登文会の皆様、遠いところをようこそ青梅へお運びくださいました。❀江戸と甲斐を結ぶ青梅街道は、武蔵御岳神社へ詣でる講の人々が通る道でもありました。宇津木家は江戸時代、養蚕の傍ら講の旅人相手に草鞋や菅笠などを商っていたそうです。❀明治時代、貰い火で家屋が全焼しました。畑を売ってなんとか家を建てましたが、建具は知り合いからのいただきものと聞いています。決して裕福ではないけれど、分を弁え、助け合って暮らしていた庶民の温かさが残る町家です。❀今も住居であるため一般公開はしていませんが、毎年雛祭りの時期だけは、興味をお持ちくださる方や知り合いの方々をお招きし、講演会、茶会、音楽会、ホームパーティーなどを開いて楽しめます。❀また、青梅の姉妹都市であるドイツ・ボッパルト市からのお客様のホストファミリーも。❀訪れる人がこの家で良い思い出を残せますよう願っております。



湯雲邸雛壇



湯雲邸雛壇



湯雲邸雛壇

東京登文会総会および基調講演

鳳明館本館

5月18日本郷の鳳明館本館で定次会員総会及び講演会三船康道氏による「能登半島地震の被災地を視て」を行いました。本郷地区で唯一残る登文の旅館鳳明館はコロナ禍で休業となっていましたがおオーナーチェンジを経て一部営業再開となりました。新オーナーの株式会社松下産業松下社長もお見え下さり再開に至る過程をご説明下さいました。地元出身の松下社長の郷土愛に基づいた行動が経営権取得に至り文化財保護のお気持ちが十分に伝わりました。これからの事業計画を見守りたいと思います。



総会後の鳳明館本館にて



総会風景



基調講演

総会議事

新規入会者報告

森 守	和朗フラッグ4号館	前年度入会	正会員
宮代清子	浅草茶寮一松	前年度入会	正会員
伊藤信夫	日本パプテストクリスト教 目白ヶ丘教会	豊島区下落合	正会員
鈴木正徳	鈴木醸造株式会社	茨城県桜川市真壁町	準会員
近藤貴子	近藤家住宅	千葉県四街道市	準会員
梅村坦・恵子	梅村家住宅	文京区西方	正会員
嘉治憲夫・一子	嘉治家住宅	文京区西方	正会員
川田公裕	藤木工務店	新宿区	賛助会員
田村公一	杉並たてもの応援団	杉並区	賛助会員

変更事項

丸石ビル	渡辺俊司(監査役)	代表者変更	法人会員
鳳明館本館	飯箸雄一(社長)	代表者変更	法人会員
古宇田彩	古宇田家住宅	相続	正会員
三宅邦昭	文京区白山新町館	息子さんに変更	正会員
村守恵子	台東区寿4-6-11新住所	登録抹消	賛助会員

前期事業

文京区千石街歩き	2022/12/03	新開屋、伊勢五米店
杉並区街歩き	2023/06/24	西郊ロッキング、古宇田家住宅、 ビストロOJI(末光家住宅)
全国登文会大阪フォーラム	2023/06/25	中ノ島公会堂、繊維会館
青梅街歩き見学会	2024/03/09	宇津木家住宅、津雲邸、まゆ蔵

今期事業予定

全国登文会伊勢志摩大会	2024/06/21	伊勢志摩フォーラム、総会
解放発行、街歩き見学会	2024/09~11	細部未定
東京タワーコンサート	2024/10/27	協賛参加

総会議案

規約、役員の改定	会計報告	
----------	------	--

お客様をお迎えする「ライオン像」について 田村公一

■三越のライオン像の位置（一頭の場合は道路から見て右左）



- ・日本橋三越本店：正面向き2頭、東側道路、正面入り口ポーチ内。新館にはいない。
- ・銀座三越：左に正面向き1頭、西南側、交差点入り口ポーチ内
- ・札幌三越：入り口右側に横向きで1頭、西南側、交差点入り口建物外で建物に平行

- ・仙台三越本館：正面向き2頭、西側歩行者道路側、入り口ポーチ
- ・名古屋栄三越：中央に1頭、北西側、交差点入り口ポーチ内（半分屋外？）
- ・名古屋星ヶ丘三越：右に正面向き1頭、北東側、交差点入り口ポーチ内
- ・広島三越：左に正面向き1頭、北東側、交差点入り口ポーチ内
- ・高松三越：入り口右側離れて正面向き1頭、西南側、交差点ショーウィンドー脇の底下、メイン道路に向かって設置。入り口とは20m程離れている
- ・松山三越：入り口左側離れて正面向き1頭、北側道路、正面入り口ポーチ内、入り口とは20m程離れている
- ・福岡三越：正面向き2頭、北側「福岡三越ライオン広場」（入り口ポーチ）内

■三越のライオン像のエピソード

- ①日本橋三越本店で待ち合わせの場所として親しまれ本館正面玄関でお客様をお迎えする2頭の「ライオン像」は、現在の建物の竣工時大正3年（1914）に誕生しました。この「ライオン像」の注文主は三越百貨店の基礎を築いたとされる当時の支配人、日比翁助（ヒビオウスケ）。その日比が百貨店開設の準備のため欧米を視察したときにイギリスで注文したもの、彼のアイデアで正面玄関に二頭のライオン像が設置されました。理由はライオンが好きだったから…だとか。その愛好振りは半端ではなく、実際に自分の息子に「雷音」と名付けたほどだったといひます。三越が「百獣の王ライオン」のようにデパート業界に君臨するようにとの念願を込めて設置したとの話があるが、その通りでしょう。
- ②ロンドンのトラファルガー広場にあるネルソン記念塔の下の4頭の獅子像がモデルとされ、英国の彫刻家メリフィールドが型どり、バルトンが鋳造したもの。
- ③完成までに3年の歳月を要したこの仕事はイギリスの彫刻界でも相当な話題となったそうです。
- ④ライオン像は青銅製で、前足から尾まで269cm、頭までの高さが120cm、太平洋戦争時、金属回収のために海軍省に供出されましたが溶解を免れ、東郷神社を経て昭和21年（1946年）に本社にもどりました。またがると念願がかなう」と言い伝えられている。
- ⑤現在ではその。「気品と勇気と度量」の象徴として、三越の象徴的存在でもあり、また、東京名物の一つとしても親しまれています。

⑥全国の三越の支店にあるライオン像は、ここのライオン像の複製だそうで、富山県の高岡で鑄造された像も有る。

⑦必勝祈願の像として「誰にも見られずに背にまたがると念願がかなう」と言い伝えられている。

⑧日本橋本店の地下には複数のライオン像が保管されている。保管場所の関係上、普段は目にすることはないが、本店でイベントを行う時などには店内に展示されることがあるという。

⑨店舗閉鎖などで行き場を失ったライオンのその後

・ライオンをシンボルとする日本体育大学に寄贈されて、またがると願いが叶うという逸話にあやかり、台座も低くなっているなど、学生たちにも親しまれるような調整を施されて設置されている。日体大以外だと、墨田区の三囲神社（三越ゆかりの神社）には池袋三越(2009年閉店)の像が設置されている。・本店以外は基本的に倉庫などで保管されているようです。



■東京国立博物館、表慶館のライオン像

・「獅子」は古くから日本美術の意匠として馴染みはあったが、現実の動物としての力強い模写の彫刻はこれが初めて、日本の近代彫刻の先駆者の大熊氏廣と沼田一雅で、明治41年（1908）制作され「阿吽（あうん）」の形で鎮座している。

■丸石ビル（大洋商会）のライオン像（石造）。

・建物は国登録有形文化財・昭和6年（1931）山下寿郎設計の建築正面玄関に鎮座。

（壁に半分くっついた柱）やアーチの弧上に様々な動物（フクロウやリスなど）や人面の彫刻が配されている。



役員

会長	金澤正剛	金澤家住宅
副会長	伊藤信夫	日本パプテストキリスト教目白ヶ丘教会
	酒井智章	池上實相寺
	平間美民	西郊ロッヂング
理事	高野亮士	魚河岸料理よし梅
	宇津木まや	宇津木家住宅
	飯箸雄一	鳳明館本館
	堀口靖之	堀口家住宅、店舗
	鶴見克己	鶴見瓦店、NPO歴史的建造物と街づくりの会副会長
	小島完	祥友建設、NPO歴史的建造物と街づくりの会副会長
事務局	渡辺俊司(局長)	西洋館倶楽部、大洋商会丸石ビル
	高橋弘樹	高橋診療所
会計	大和田真一	難波商店
幹事	棚澤由貴子	棚澤書店
	宮代清子	浅草茶寮一松

顧問	伊藤滋	東京大学名誉教授
	入江健久	新潟医療福祉大学名誉教授
	後藤治	工学院大学教授
	日塔和彦	東京芸術大学客員教授
	藤井恵介	東京大学教授
	三船康道	ジェネスプランニング(株)、NPO歴史的建造物と街づくりの会会長
	(敬称略)	

編集後記

東京登文会の会報第14号をお届け致します。今回は行事関係の記事等が多く8ページに纏めるのに大変苦勞致しました。投稿頂いた会員さんには御礼申し上げます。

今後会員の皆様からの投稿記事など充実させていきたいと思っております。

全国フォーラム、街歩きの会など企画ものに参加者が増えることを願っております。

東京登文会事務局：143-0023大田区山王3-30-5 スタジオクラシック高橋方

編集担当：渡辺俊司、高橋弘樹、大和田眞一

令和6年10月

発行：東京都登録有形文化財建造物所有者の会 事務局

発行・編集担当：高橋弘樹
住所：〒143-0023東京都大田区山王3-30-5
☎080(5440)2957
E-Mail：hiroki.photo39@gmail.com